

令和 7 年 3 月 29 日

令和 6 年度 東京都立竹台高等学校 学校経営報告

東京都立竹台高等学校長

福島 泰直

1 今年度学校経営計画の実現状況の概要

学校経営計画において、「中期的目標と方策」として8項目を示し、それぞれについて、「今年度の目標と方策」として、(1)教育活動の目標と方策、(2)重点目標と方策、という2つの視点で、より具体的に示し、学校経営を行った。その実現状況と学校評価の結果について以下に概要を述べ、数値目標の実現状況を報告する。

[取組状況の概要]

(1) 学習指導の充実

全学年が新学習指導要領における教育課程となり、昨年度の課題を踏まえ、その解決に取り組んだ。観点別評価については、引き続き教務部主導で、著しい教科間格差が生じないように、各教科に積極的に働きかけ、学校の統一基準に基づいた観点別評価を実施した。また、新学習指導要領への対応として、年間行事予定表に教科会開催日を記載し、会議の実施を固定化することで、各教科における教員間の協議、調整の時間を確保することができた。さらに、「人間と社会」について、「人社」「探究」委員会を中心に教科横断的な視点による指導計画に基づき、学期ごとに担当者会議を行いながら、生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析し、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく取り組みを実践した。一方、校内のデジタル化の推進、授業でのICT活用等については、全教員がICT指導力を身に付けつけるよう積極的にOJTによる研修を実施し、その結果、オンライン授業等において、しっかりと生徒を指導し、授業を行うことができた。今年度、学力向上研究校としての指定を受け、外部の学習支援員による「竹台塾」と名付けた放課後学習会を行った。また、補習・講習会の充実として、朝学習や、部活動と同様に位置付けた土曜講習の「まな部」を引き続き積極的に実施し、家庭学習の一部として、生徒に学校で勉強する習慣づくりを強力に推進した。その結果、「竹台塾」や「まな部」に、自ら意欲的に参加する生徒が増大した。特に英語は、1年生が「TOKYO GLOBAL GATEWAY」に参加するなど、グローバル人材育成に力を入れており、「竹台塾」や「まな部」を活用し、英検2級、準2級の合格者が増大した。在京外国人生徒への日本語指導は、今年度、月曜日の放課後に7、8時間目を設置し、学校設定科目「日本語」を実施した。また、引き続き放課後を活用し、外部の日本語指導者による日本語指導講習を設置し、在京外国人生徒を中心に、日本語能力

向上のための学習指導体制構築を推進した。また、グローバル人材育成の視点から、在京外国人生徒を通じて、生徒が異なる文化や習慣、考え方を尊重し、多様な人々との話し合いの中で合意形成を図ったり、協力したりすることができる資質・能力の育成に努めた。

(2) 進路指導の充実

生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を身に付けられるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的

な進路指導を行い、キャリア教育を推進している。生徒への進路指導を徹底するため、Classiを活用した、生徒、保護者と学校間での双方向の連絡体制を構築し、緊密な連携が図れるようにした。また、「総合的な探究の時間」を活用し、生徒が課題を見つけ、分析し、解決策を計画し、解決していく力を育成するとともに、一連の過程を自分の言葉で発表できる力の育成を目指した。そして、取り組みの中で、生徒が学びの成果を実感できるような授業を学校の財産として引き継いでいけるよう、組織的、一元的な指導体制づくりを行った。今年度も、第一希望進路の実現と、卒業生全員の卒業時進路決定を目標として進路指導部、学年を中心に取り組み、第一希望進路実現率約94%、進路未決定率約6%という、よい結果となった。3年間を見通した、計画的な進路指導の実践が、生徒の卒業後の進路に対する意識を高め、進路未決定者を減少させている。平成29年1月に明海大学と高大連携協定を結び、それ以降7年に亘り、大学の教育内容に直接触れることで、生徒の視野が広がり、進路に対する意識及び学習意欲を高めることができている。今後も大学教育・高等学校教育相互の活性化を図れるよう、信頼関係にもとづいた高大連携を推進したい。

（３）生活指導の充実

新型コロナウイルス感染症の感染者防止のため、登校に際して、個に応じた柔軟な対応を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、昨年度、以前のような遅刻対応を行ったところ、生徒の生活パターンを変えることができず、遅刻者数が増加した。このため、今年度は、生徒の意識改革に努め、年度当初より厳しく遅刻指導を行い、生徒の行動改革に取り組んだが、昨年度同様の遅刻者数となってしまった。遅刻の状況を分析してみると、1年生は少なく、昨年度少なかった2年生が倍増、昨年度多かった3年生は減少していたため、さらに、学年の指導内容を分析し、効果のあった方法をみつけることで、きめ細かい指導を徹底した。具体的には、全教員による登校指導、担任による生活習慣を改善することを目標とした個別指導、保護者と連携した家を出る時間の指導等を繰り返し行い、遅刻者数の減少に取り組んでいる。頭髮・服装指導においては、朝、校門に多くの教員が立ち、指導を行っている。授業開始時にも、授業担当者が身だしなみ指導を行い、指導の徹底を図っている。しかし、2年、3年と進級するに従い、スカートの折り上げる生徒が増える傾向にあり、全教員で粘り強い指導を行っている。学校はルールを守ることの大切さを学ぶ場であることを一人ひとりの生徒がしっかりと認識し、言われるから直すのではなく、自ら自分を律し、行動することができるよう、生徒の自覚を促す丁寧な指導を粘り強く行っている。さらに、道路交通法の一部改正により、ヘルメット着用が努力義務となったことを受け、ヘルメット着用を自転車通学の許可条件とするなど、繰り返し生徒、保護者に自転車登校時のヘルメット着用を指導するとともに、荒川警察署の協力を得て、朝の登校指導時に繰り返し警察官に直接指導していただく機会を取り入れた。本校の生活指導において大切にしてきた「規律ある自由」を生徒に十分に理解させるとともに、生徒が自律的、自発的に自らの行動をコントロールできるように、今後も指導の充実を図る。いじめの未然防止について、教員間の連携体制を強化し、トラブルに迅速に対応できるよう、各教員がセンサー感度を高め、生徒の発する微弱なSOSを感じ取り、いじめの早期発見、早期対応に努めている。

（４）募集・広報活動の充実

すべての施設の完成を受け、今年度も「新校舎効果」による応募倍率伸長というメリットを享受し続けている。しかも、竹台高校を強く志望し、入学してくる生徒が、ここ数年増加しており、そうした生徒が入学後、落ち着いて前向きに学校生活に取り組む様子が随所に見

られる。そのため、こうした状況を学校行事や教育活動の様子として具体的かつタイムリーに「竹台通信」やホームページ等で積極的に発信し、安心、安全で、校訓の精神である「共に学び 共に進む」を実践する学校であることを強くアピールしている。また、全教員での募集広報活動を実施し、新入生アンケートや学校見学会や学校説明会の分析結果をもとに、総務部を中心に、組織的、計画的、戦略的な募集活動を行うことで、推薦入試等すべての入学者選抜において、高い応募倍率を維持することができた。今後はさらに「本校の特色」を明確に示し、本校の教育活動を深く理解してもらう学校説明を行うことで、多くの中学生に本校への入学を強く志望してもらえるよう、より効果的な募集対策について検討する。

（５）健康・安全の充実

今も新型コロナウイルス感染症に感染する生徒がおり、さらに、インフルエンザ等の他の感染症に感染する生徒も多くみられた。そのため、校内においてはもちろん、日常生活において、生徒に対して引き続き、「自分を守る、家族を守る、友達を守る」ための感染症対策への意識を高める指導を行った。今も多くの生徒がマスク、手洗い、消毒等の感染症対策を継続しており、校内において、感染症の感染拡大を防止できている。昨年度、今年度と春から夏、秋と異常な暑さとなっている。そのため学校においては、熱中症予防情報や実際に暑さ指数を観測しながら、指針に従い、冷房設備のある場所で活動させる等、熱中症の危険を回避する行動を徹底した。特に６月初めに実施した体育祭は、競技種目を減らすなど、時間を短縮して実施したが、それでも暑さで体調を崩す生徒がおり、今後冷房設備のある施設を会場とするなど、根本的な対策が必要である。また、友人関係や家族関係など、様々な問題を抱え、悩みを相談する生徒が増え続けている。担任や養護教諭を中心に全教員で生徒に寄り添い、スクールカウンセラーと連携しながら、生徒たちにとって学校が安心、安全な居場所となるように取り組んでいる。さらに、全教員間での生徒情報の共有のため、全校でのケース会議、研修を行い、個々の教員の指導力を高める体制づくりを推進した。校内において、生徒が安心して心身を休め、悩みを相談することができる居場所づくりは、喫緊の課題であり、ＳＯＳの出し方についての指導を行うとともに、課題解決に取り組んでいる。災害から「自分を守る、家族を守る、友人を守る」ために、荒川区、消防署、水道局、町会と連携した防災訓練を実施し、災害に対する体験的、実践的な防災教育による生徒の防災意識の向上を図った。

（６）特別活動・部活動

今年度は、体育祭・文化祭はもちろん、校外学習、修学旅行も計画どおり、ほぼすべて実施することができた。体育祭・文化祭ともに、生徒は持てる力を最大限に発揮し、上質な内容を実現することができた。体育祭は、６月初めに実施したが、この時期でも熱中症の危険が生じていた。文化祭は、一般公開は行わず、保護者、中学生、卒業生にのみ人数を制限した事前予約制で実施した。特別活動は、引き続き校内デジタル化を推進しながら、特別活動の様々な場面での内容の充実に、生徒と教職員が一体となって取り組み、多くの場面で生徒の可能性を感じられた。部活動は学校と地域との連携・協働による活動への移行という流れを受け、多くの部で部活動指導員が指導に関わっている。また、「TOKYO ACTIVE PLAN for students」が目指す、自ら体力を高めていく習慣を身に付け、生涯にわたって心身の健康を保持増進することができる資質・能力の育成に取り組んだ。生徒が意欲的に部活動を継続していくよう指導することで、生徒が、やらされるのではなく、自分で考え行動するようになったことで、活発に活動する部が増えている。同好会から部活動に昇格したり、

部員数が増加したり、よい成績を残したりと今後の成果に期待している。

（７）地域連携の充実

昨年度まで実施していた、学校開放でのテニスコートの貸し出しは、テニスコートの改良工事のため、実施できなかった。テニスコートに接して、マンションや一軒家が周りに立ち並んでおり、テニスコートの防球ネットを超えてボールが出てしまい、近隣の方々の迷惑をかけていたため、改良工事では、テニスコートの周りの防球ネットを可能な限り高くする工事も行われた。住宅街の中にある学校として、いかに近隣の方々に理解をいただきながら、十分な教育活動を行っていくかが問われている。地域の行事への参加については、生徒の安全、安心に十分配慮したうえで、地域との連携を推進していきたい。また、昨年度から「人間と社会」に位置付けた地域清掃活動について、今年度も東日暮里５丁目町会の方々と生徒と一緒に近隣地区の清掃活動を行い、地域貢献することの大切さを学ぶことができた。

（８）学校経営・組織体制の充実

主幹会議は、学校課題について、有益な意見交換、情報交換を行い、解決策についての検討も行うことができている。そのため、主幹教諭のＯＪＴの場として位置付け、時間割に組み込み、毎週１回、定期的に開催した。そのため、各主幹教諭が自己の役割をしっかりと認識し、統一的、組織的な学校運営を行うことができた。また、企画調整会議は、様々な視点で、忌憚なく意見交換がなされ、各分掌、各学年主任間の横の連携が密に行われたことで、迅速な対応、確実な処理が行われた。その結果、会議の進行は円滑で、会議時間の短縮につながった。さらに、ペーパーレス化を強力に推進し、職員会議など、全教員が集まる場合は、資料の印刷をやめ、TAIMS 端末を利用して内容を確認し、会議を行った。また、保護者から

の要望を受け、保護者向けの通知を印刷物だけではなく、Classi を使い連絡し、ペーパーレス化に取り組んだ。学校運営連絡協議会は、本校において３回実施し、協議委員からは、今後の竹台高校について様々な意見をいただくことができた。教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を目指し、業務の効率化、仕事量の減少に努め、学校における働き方改革を推進した。サービス事故の防止については、あらゆる機会に応じて指導を徹底した。

[学校評価]

（１）評価結果の概要及び分析・考察

- 学習面についての評価は、肯定的な評価が多い。昨年度と比べても変化が少なく、一定の評価を得られている。学びを止めないという視点で今後の教育活動を続けていく。
- 部活動については、様々な場面で、活動が活発になっていることから、昨年度よりも肯定的な評価が多かった。
- 「体罰や暴言に頼らない指導」については、生徒・保護者ともに高い肯定的評価となっており、学校が安全・安心な場所となっている。
- 今年度、教職員の肯定的評価が高く、学校目標に対応した教育活動を各教員が理解し、実践していることがわかる。特に授業において、各教員が授業内容等を工夫し、確実な学力の向上を行っている。
- アンケートを生徒・保護者・教員では、forms を活用し、効率よく実施した。地域住民
には、町会と連携しての紙での実施となった。また、対象者に関わらず、「わからない」

と回答する率が前年度に比して増加しており、活発な学校情報提供が必要である。

- 学校ホームページや特に Classi 等による紙以外での情報伝達方法の活用がかなり定着した。今後もさらに様々な方法で学校情報を家庭に伝える体制を整える。地域に対しては、町会等に学校通信をポスティングする態勢を作るなど、工夫していきたい。
- 登校機会が増えたことで、人間関係構築に困難さを感じている生徒が増えており、教職員がきめ細かく対応できる体制づくりを強力に推進する。

(2) 学校運営連絡協議会および学校評価を活用した教育活動の改善事項

①学校運営

- 学校経営計画の具現化のための組織的な学校運営
- キャリア教育の充実と推進
- カウンセリングマインドを取り入れ、個を大切にする指導の向上と体制強化
- 学校HP、Classi 等を活用した生徒、保護者、中学生、地域への情報発信
- 教育環境及び防災拠点として、新校舎と設備に寄せられる期待への対応
- 防災訓練を通して、生徒への防災教育の充実と地域と連携した取組の推進

②学習指導

- 授業規律を徹底し、生徒が主体的に学べる授業づくり、学習指導方法の確立
- 質が高く、生徒が意欲的に学習に取り組むことのできる授業づくりの推進
- 保護者と連携し、効果的な補習・講習実施計画づくりと生徒の参加の推進
- 一人1台端末、ICT活用等による生徒の学習意欲向上を図る授業づくり
- 自習室利用、「竹台塾」等の活用による学校での学習習慣の定着

③生活指導

- 時間を守り授業規律をしっかりと守る自律した態度の育成
- 生活指導部と学年が連携し、効果的な頭髪・服装指導、遅刻指導の実施
- 部活動加入率の向上、成果をあげた部活動を手本として、全部活動の活性化
- 荒川区の行事参加、町会等の地域行事参加等を通じた地域との連携強化

④進路指導

- 1年時から進路指導の充実を図り、3年間を通じての進路意識醸成の継続
- 担任による希望進路実現のための3者面談、進路説明会の実施
- 外部機関と連携したキャリア教育の推進と改善に向けた不断の見直し
- 生徒・保護者の希望進路を適える外部機関等を活用した進路指導体制の確立
- 総合的な探究の時間に係る学年間の連携の強化や組織的な運営体制の整備

⑤健康・安全

- 美化活動を指導重点項目とし、清潔で快適な学習環境の整備
- SCや都立版エリアネットワーク、YSW等を活用した生徒の心のケアと育成

⑥教育相談機能の強化と教員研修の実施

- 防災教育を継続して推進し、自助・共助の精神の育成と地域連携の構築

2 数値目標の実現状況と自己評価

※A＝十分達成 B＝概ね達成 C＝達成できなかった

() 内数値は前年度実績 【 】 内数値は今年度結果

数値目標としては、達成できたもの、達成できなかった項目がある。今年度も、数値目標を指標として、計画的、組織的な教育活動を実施した。長い期間行った、感染症対策が生徒の日常生活の中に定着し、感染拡大前の通常の学校生活に戻しても、生徒がすぐに対応できない状況が見られている。現段階では、評語はCとせざるをえないが、目標実現、課題解決に継続して取り組んでいることから、学校経営上は、全体的に安定している。

＜＜学習面＞＞

- ・ 自習室の開室 常時開室（学校行事・ 考査等期間以外常時開室）
【常時開室】 A
- ・ まな部の実施 各学年 7 回以上（1 学年 7 回 2 学年 12 回 3 学年 10 回）
【1 学年 7 回 2 学年 6 回 3 学年 5 回 漢検対策 15 回】 A
- ・ 長期休業中講習 開校講座 20 延べ 200 時間以上 500 名以上
（教科 14 講座 146 時間 93 名、日本語教室集中講座 10 時間 55 名参加）
【教科 26 講座 198 時間 164 名、日本語教室集中講座 10 時間 153 名参加】 A
- ・ 生徒による授業評価における肯定的評価 85%以上（81.2%）【82.0%】 B
- ・ 図書館貸出冊数 1800 冊以上（1756 冊）【1560 冊】 C
- ・ 資格取得準 2 級以上 20 名以上（14 名 英検：6 名 漢検：8 名）
【41 名 英検：36 名 漢検：7 名】 A

＜＜進路指導面＞＞

- ・ 4 年制大学進学率 50%（46%）【49.3%】 B
- ・ 日東駒専以上現役合格 15 名（13 名）【8 名】 C
- ・ 就職内定率 100%（100%）【100% 13 名】 A
- ・ 進路未決定者 8 %未満（9 %）【5.7%】 A

＜＜生活指導面＞＞

- ・ 年間遅刻 30 日以上 1 年生 5%以下（18%）【2%】 A
2 学年 5%以下（29%）【28%】 C
3 学年 5%以下（24%）【20%】 C
- ・ 部活動加入率 1 学年 75%（72%）【80%】 A
- ・ 学校評価アンケート 地域の否定的評価 15%未満（15.2%）【50%】 C
- ・ 体罰 0 件（0 件）【0 件】 A

＜＜募集・広報活動面＞＞

- ・ ホームページ年間更新回数 250 回以上（226 回）【261 回】 A
- ・ 学校説明会 5 回（5 回：996 名）【5 回：2778 名】 B
- ・ 個別相談会 2 回（2 回：80 名）【2 回：103 名】 A
- ・ 中学校訪問 110 校（105 校）【137 校】 A
- ・ 塾訪問 35 校（30 校）【46 校】 A
- ・ 中進対第 1 志望調査 1.70（1.68）【1.64】 B
- ・ 入学者選抜応募倍率（学力検査） 1.70（1.61）【1.47】 B
- ・ 文化祭来校者数 2000 名
（450 名（中学生 188 名、保護者 262 名）
【1700 名（中学生 500 名、保護者 700 名、卒業生 500）】 A

・「竹台通信」発行	12 回（12 回）【12 回：月 1 回発行】 A
・相互授業見学各学期 1 回以上	100%（100%）【100%】 A
<<地域連携面>>	
・施設開放	10 団体以上 10 日（21 団体 12 日） 【0 団体 0 日：施設工事のため実績なし】 C
<<学校運営・組織体制面>>	
・主幹会議	25 回以上（24 回）【25 回】 B
・電子起案の推進	99%以上（99%）【99%】 A
・センター契約	54%（57%）【50%】 B
・定時外在校時間	80 時間越 0 名（1 名）【2 名】 C
・月 1 日以上の定時退庁	100%（100%）【100%】 A
・男性教職員育児休業取得率	50%（100%）【100%】 A

3 次年度以降の課題と対応策

（1）学習指導

引き続き基礎・基本の学習内容の着実な定着を進めながら、学力の向上に取り組んでいく。そのため、各教員が新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した授業づくりを行い、話し合い活動や I C T 機器を積極的に授業に取り入れ、生徒の学習意欲を高める。また、教育課程委員会及び教科会を定期的に開催し、教科内での指導内容や指導方法の共有化を進めるとともに、教科横断的な連携を深め、組織的な学習指導体制を構築する。模試を活用して各生徒の学力状況を分析し、それぞれの生徒に必要な学習内容を明確にし、担任、教科担当が連携することで計画的に、「学び直し」を行い、「わかる」楽しさを通して、生徒の学習意欲の向上を図る。さらに、朝学習の時間を有効に活用し、学習習慣の定着を図るとともに始業前・放課後の自習室の開放を継続し、放課後には、外部人材を学習指導員として配置した「竹台塾」において個別指導を行う。さらに、日本語指導として、放課後の 7 時間目、8 時間目に学校設定科目を設置する。生徒間に定着したまな部の活動も、教科ごとに、活性化を図り、週休日等の学習支援として、生徒の主体的な学習を支援する。

（2）進路指導

生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路選択することができるよう、入学時から系統的かつ組織的な指導を、引き続き意図的・計画的に実施する。各学年と進路部がこれまで取り組んできた取り組みを継続・強化するとともに、常に生徒・保護者と課題意識を共有しながら、それぞれの生徒に対応したキャリア教育を目指し、全体計画を作成する。模試・適性検査・個別面談等を実施し、個々の生徒に寄り添い、保護者との連携を密に行いながら、生徒に主体的に進路を考えさせることを大切にした、的確な指導・助言を行う。自ら進路目標を設定し、選んだ第一希望進路を、易きに流れず努力し続ける進路指導を引き続き継続して実施する。高大連携校である明海大学と連携し、大学の教育内容に生徒を直接触れさせることで、生徒の視野を広げ、進路に対する意識を高め、学習意欲を引き出すことで、今後も大学教育・高等学校教育相互の活性化を図る。

（3）生活指導

全校集会・学年集会・ホームルーム等を活用し、本校のルールやマナーについて繰り返し指導し、生徒が自ら主体的にルールやマナーを守る行動が取れるようにする。本校が大切に

してきた「規律ある自由」について、生徒の理解を図るため、高校は社会に出る前に、ルールやマナーを守ることの大切さを学ぶ場であり、自由とはルールやマナーを守ったうえで、享受できる大切なものであることを確実に理解させる。自由の大切さを理解し、高い規範意識をもち、自らの行動をしっかりと制御できる生徒を育成する。今年度、身だしなみ指導、遅刻指導を受ける生徒が増加した。遅刻・身だしなみ等の規範意識を高めるために行った様々な対策について、その成果を検討し、調整を加えながら、より効果的な指導方法を見つけ、実施していく。生徒会活動、部活動においては、生徒が主体的に活動する自己啓発活動の場として、来年度も多くの部活動指導員等の地域の外部人材を活用しながら、生徒の心と体の調和した成長を促す。

（４）募集・広報活動

推薦、入学者選抜前期の応募倍率の向上を目標とし、高い倍率を維持している今年度の募集・広報活動の内容について、分析し、再検討し、より効果的・効率的な募集活動を実施する。具体的には、①本校の特色について、中学生がわかりやすい内容となるよう改めて検討する。②入学生に、より詳細なアンケートを行い、入学生からの情報を集め、募集活動に活かす。③学校見学会・説明会の来校者を増やす。④在校生による説明を実施する。さらに、地域等、多くの人に竹台高の教育活動を伝えるため、竹台通信の内容を強化し、ホームページ等を活用して、積極的に外部への情報発信を行っていく。

（５）健康・安全

感染症に対する対策を、地域の感染状況等関連する情報の収集に努めながら、校医と連携し、校内での感染症拡大を防ぐ対策を徹底する。学校は、生徒の命や健康を守り、安全・安心を最優先とする教育活動を行う場であり、その環境づくりを強力に推進する。そのため、学校不適応や中途退学の未然防止及び自殺予防、ＳＯＳの出し方に関する指導や対策を強力に進め、スクールカウンセラーや学校産業医、都立版エリアネットワークによる発達障害のある生徒支援事業等を活用した教育相談体制の強化に努め、生徒個々の状況の把握と一人一人に応じたきめ細かい指導、外部人材等を活用した校内における生徒の居場所づくりを行う。防災教育や安全指導について、体験を重視しながら、災害や事故から身を守る方法についての指導を徹底する。熱中症防止に努め、熱中症予防情報や実際に暑さ指数を観測しながら、指針に従い、外での活動を禁止するなど、最大限に生徒の安全に配慮する。

（６）特別活動・部活動

生徒会活動、委員会活動を活性化し、生徒の学校への帰属意識を高める。２大行事である、「体育祭」「若竹祭（文化祭）」において、それぞれの実行委員会が、計画、運営の主体となり、生徒が自分たちの力で大きな集団を動かす経験を通じて、達成感や自己肯定感を得られるよう、指導を行う。特に体育祭は、開催時期が熱中症の危険が高い時期と重なるため、冷房の効いた大きな体育館で開催できるよう場所探しを積極的に行う。オリンピック・パラリンピック教育による学校レガシーと、在京入試枠設置校としての特色を生かし、多様性を尊重することの大切さについて理解を深め、「豊かな国際感覚」の醸成を図る。様々な違いを有する生徒が在籍している本校において、「共に学び 共に進む」という校訓の精神の涵

養に努め、互いに尊重し合い、友となり、共に歩いて行く学校づくりを推進する。

（７）地域連携の充実

生徒の安全・安心を十分に担保しながら、地域との連携を図ることで、地域に理解され、貢献できる学校を目指す。学校情報を積極的に発信し、地域の方々が、「竹台高はこんな学校」と答えてもらえるような、地域に根差した学校づくりを行う。今年度も実施したように、来年度も東日暮里５丁目町会の方々と一緒に近隣地区の清掃活動を行い、地域貢献の大切さや社会に生きることの大切さを体験させたい。引き続き、近隣の消防・水道局、荒川区防災課等の関連部局との連携を充実させていく。

（８）学校運営・組織

学校課題を全校で共有することで、取り組むべき方向を明確にし、全体で課題解決に取り組む体制づくりを行う。課題解決につながる東京都教育委員会の指定や支援を積極的に受け入れ、学校の活性化を図るとともに、さらに各教員の教育活動が充実・発展するような取り組みを積極的に推進する。法令・規則等に基づく組織的な学校運営を継続し、会議時間の短縮、会議資料のデジタル化、ペーパーレス化、オンライン会議の導入などを通じて、効率化、合理化、省資源化を進め、ライフ・ワーク・バランスの充実に取り組む。